

東京農業大学 国際食料情報学部  
食料環境経済学科(農業経済学科)  
80周年記念式典・記念講演・記念祝賀会

令和元年 10月14日(月) 13時～19時

記念式典・記念講演: 横井講堂

記念祝賀会: レストランすずしろ

東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科

## ご挨拶

東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科は、前身の農業経済学科から今年で創設80周年を迎えることができました。

本学科は、農学における社会科学分野の日本および世界の拠点の一つとして、研究に邁進してまいりました。また、横井時敬初代学長の言葉である「人物を畑に還す」の理念のもと、多数の有為な人材を輩出してまいりました。これもひとえに、卒業生や保護者の方々をはじめとして、実習・研修などの受け入れ先や卒業生の就職先、地域の方々、大学関係者のご支援・ご協力と、学科の名誉教授をはじめとする諸先生方・スタッフの熱意とご尽力の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

本学科の歴史のなかで、とくにこの20数年は社会の変化と時代の要請により、改革に取り組んでまいりました。本学科の伝統であるフィールド研修（農家実地研修）に加え、フィールドリサーチ（遠距離視察研修）、山村再生プロジェクト、基礎ゼミ研修、ブリッジ（学生×社会 共創プロジェクト）など、多くの取り組みを導入いたしました。また、令和2年1月には新研究棟7階への移転と、新年度から研究室再編を行う予定であります。

これまでのよき伝統を受け継ぎつつ、さらなる研究・教育の充実に向けて、総力を挙げて取り組む所存でありますので、今後ともご支援・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和元年10月14日

東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科  
学科長 高柳 長直

### 食料環境経済学科からのご案内

本学科では、数年前から、大学収穫祭に合わせて、OB/OG懇談会を開催しています。この懇談会は、収穫祭に来場される学科卒業生の皆様を学科としてお迎えして、ゼミや研究室、卒業年度を超えて広く交流していただくことが目的です。

例年、収穫祭の2日目、土曜日の16時から（本年度は11月2日、13号館2階学科会議室）開催することとなっております。無料で自由に参加できますので、是非ともお立ち寄りください。教職員一同皆様のご来場をお待ちしております。

なお、今後、卒業生向けにも学科のHPを充実させていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

# プログラム

## 記念式典・記念講演

開式

主催者挨拶 食料環境経済学科 学科長 高柳 長直

来賓祝辞

東京農業大学 学長 高野 克己 様

東京農業大学 理事長 大澤 貫寿 様

東京農業大学校友会 会長 萬歳 章 様

東京農業大学教育後援会 会長 瀧 賢一 様

中野市農業協同組合 代表理事組合長 望月 隆 様

長野県長和町 町長 羽田 健一郎 様

閉式

記念講演

及川 智正 様 (株式会社農業総合研究所 代表取締役社長)

中村 正明 様 (関東学園大学経済学部 教授)

食料環境経済学科の現在 (学生による紹介)

座談会

登壇者：西尾 眞一 様 (静岡県立藤枝北高等学校 教諭)

小針 美和 様 (株式会社農林中金総合研究所 主任研究員)

菅沼 祐介 様 (山梨県甲府市 菅沼農園 代表)

記念写真撮影

## 記念祝賀会

開会

挨拶

乾杯

大学生活の思い出

大根踊り (応援団、チアリーダー部)

万歳三唱

閉会

---

## 講演者・登壇者の紹介と後輩へのメッセージ

---

### 及川 智正 株式会社農業総合研究所 代表取締役社長

平成9年度東京農業大学農学部農業経済学科卒業。埼玉県出身。大学時代はとても充実していた。農友会ローバークルー部に所属し、登山やボランティア活動、そして朝から晩までお酒を飲み、仲間達と語り合った。部活動では、南賞を受賞することが出来た。残念ながら、学業に励んだ記憶はないのだが、良い仲間が全国に沢山出来たことは、今でも私の宝物である。卒業論文では、未来の日本農業の成長を調査した。そこで農業の未来に危機感を覚え、会社員を6年間経験後、農業界へ転身したことが、私の波乱万丈人生のスタートである。自分で農業を3年、青果店を1年実践し、その経験を活かし、平成19年に現金50万円で農業総合研究所を設立した。Japan Venture Awardsを始め様々な賞の受賞や、多数のメディア出演や講演活動、各省庁の委員、大学の講師も務めている。また、農業界の急成長企業、そして、農業ベンチャー初の上場企業として全国から注目を浴びている。

後輩の学生達へ。農業界にも明治維新のような激動の時代がやってきました。この荒波をチャンスと変えることができれば、農業は更なる発展を遂げることが出来ます。農業が注目されるこの時代、情熱を燃やし、リスクを恐れず、自分を信じ、志を語れる人間になってください。私は皆様の目標になれるよう日々邁進します。農大生よ快活であれ！

### 中村 正明 関東学園大学経済学部 教授

平成元年度東京農業大学農学部農業経済学科卒業。千葉県佐倉市出身。学生時代は竹中久二雄ゼミに所属。大学在学中に、農業経済学を学ぶ傍ら農村を歌ったシャンソンと出会い、シャンソニエで歌いはじめる。卒業後音楽の道へ進み、平成4年ブラジルでの“地球サミット”の協賛テーマソング/JAのCMソング『SUN SHINES FOREVER』を、地球サミットで歌うとともに全国各地の農村で歌う。これをきっかけに、東京農業大学農業経済学科卒の加藤日出男氏（若い根っこの会 会長）プロデュースによる『KEEP HER STEADY』をリリース。その後、家業を継ぎながらまちづくりにも力を注ぎ、産・官・学・民の連携と協働をコーディネートしながら、大学の講師や研究員、自治体の各種委員や講師、6次産業化プランナー、都市・農村交流コーディネーター等を務める。現在は、関東学園大学経済学部教授・東京農業大学客員研究員として、6次産業化や地域の活性化をテーマに学生や社会人の人材育成と研究に取り組みながら、全国各地の生産者の販路開拓・商品開発・ブランディング等、6次産業化や農商工連携をベースとしたソーシャルビジネスのプロデュースを手掛けている。

後輩の学生達へ。学生時代には、いろいろなことに思いっきりチャレンジしてください！学生時代の経験は、必ず将来に役立つと信じて。そして、農大のつながり（先輩・後輩・大学等）を大切にしてください。農大のネットワークは、チャレンジするあなたを必ず支えてくれます。

## 西尾 眞一 静岡県立藤枝北高等学校 教諭

平成元年度東京農業大学農学部農業経済学科卒業。静岡県出身。静岡県立小笠農業高等学校、静岡県立天竜林業高等学校、静岡県総合教育センターでの勤務を経て現職。平成25年に第64回日本学校農業クラブ連盟全国大会プロジェクト発表会文化生活の部最優秀賞、平成26年に第46回中日教育賞、平成28年には高校生ビジネスプランコンテスト(日本政策金融公庫主催)準グランプリを受賞。学生時代には、収穫祭での特別企画委員長や農経会委員長を務めた。黒板いっぱい木木の絵を描き、根の部分の叩きながら「農業は根っこだ!」と叫んだ内山政照先生の情熱的な農業思想論の講義を忘れることができない。内山先生を慕い農村社会学研究室で学んだ。そこには、面倒見が良い熊井治男先生や個性的で情に厚い先輩や仲間がいた。毎日のように、酒を酌み交わし議論をした日々が、故郷で農業を教える原点となっている。

## 小針 美和 株式会社農林中金総合研究所 主任研究員

平成11年度東京農業大学農学部農業経済学科卒業。平成16年に株式会社農林中金総合研究所に入社。中学生の時に当時ホット 이슈となっていた「コメの輸入自由化」を自由研究のテーマにしたことをきっかけに、「食料、それを生産する農業は絶対になくならない」と考え、農大に進学。大学院の修論、現在の調査研究業務も一貫してコメを中心に日本農業・農政をテーマとしている。農村経済研究室(ムラ研)に所属し、学部2年の時に、農村社会学研究室が中心となり、研究室所属学生有志で文展に出展した「みさくぼプロジェクト」に参画。研究室活動を通じて、2号館4階の多くの先生方、先輩方のご指導いただいた。就職後も、ムラ研の先輩にご協力いただき、宮城県登米市でのコメ生産調整の現場密着調査をさせていただくなど、同窓のつながりのありがたさを実感している。

現在のカリキュラムは、私の学生時代よりも現地での研修機会が増えていて羨ましく感じている。なんでも挑戦出来る学生の特権を最大限活用して、現場から学び、農大のよき伝統を受け継いでいっていただきたいと思う。

## 菅沼 祐介 山梨県甲府市 菅沼農園 代表

平成27年度東京農業大学国際食料情報学部農業経済学科卒業。東京都府中市出身。地域協議会「農継者中道地域協議会」発足、会長就任歴あり。学生時代は、3年の終わりまでは、立ち上げたサークルで研究活動をしていた。研究内容は「食料廃棄物の利用方法と減少対策について」で、農村や農家とは少し離れた課題に目が向いていた頃だったのを記憶している。就活を初めて2月になる時に、関東が大雪に見舞われた。このとき農家への雪かきボランティアを組織したことをきっかけに会社に勤める予定だった自分が就農への道へ引き込まれることとなる。この出来事により、研究論文の内容を大きく変えて「農村、農家が必要にしていることと今自分ができること」を探求することになる。大学4年の6月末に「自分ができること」の結論として、就農を決意。夏休みは農家の家にずっと泊まり込みで体力と能力の基礎を身につけ、卒業と同時に移住、就農となった。現在、山梨県甲府市中道地域に移住5年目、就農4年目。

後輩達へ。実学の場合が農村をそしてなにより自分を耕すことに繋がります。まずはその手に鍬を持って畑に繰り出してみましよう!

## ■食料環境経済学科（農業経済学科）80年の歩み

年		学科の動き
1938	昭和 13	農業経済研究室完成（6月）（東京農業大学が常磐松にあった時代） 農業経済学科設置認可、定員 120 名（12月）
1939	昭和 14	農業経済学科開講（4月） 農経会発足 『農経會々誌』（現：農経會誌）創刊号発行
1940	昭和 15	専門部農村経済科設置認可（12月）
1945	昭和 20	戦災で校舎や施設の大部分を消失（5月） 渋谷区常盤松より世田谷区に移転し授業開始（10月）
1949	昭和 24	新制大学設置認可（2月） 新制大学農業経済学科開講（4月）
1951	昭和 26	専門部廃止、最後の卒業式（3月）
1953	昭和 28	大学院農学研究科農業経済学専攻修士課程設置認可（3月） 同上開講（4月） 東京農業大学農業経済学会創設（11月）
1954	昭和 29	『農村研究』創刊号発行（2月）
1962	昭和 37	大学院農学研究科農業経済学専攻博士課程設置認可（3月） 同上開講（4月） 学科目（カリキュラム）改訂、1年次からゼミナール制 学科コース制開設、ゼミナール制度の拡充 農家実地研修（現：フィールド研修）の制度化 2号館総合研究室の完成とその4階への移転（6月）
1966	昭和 41	農村視察研修制度の確立 優秀卒業論文と農家実地研修のレポートをまとめた『大地に学ぶ』創刊（12月）
1967	昭和 42	研究室体制の確立 農業経済学科学生図書室開設
1969	昭和 44	学科目（カリキュラム）改訂、新たに基礎教育科目を設定 学科コース制の廃止
1974	昭和 49	東京農業大学農業経済学会評議会制度を廃止し、理事会制度を設ける
1975	昭和 50	学生図書室を図書館農経コーナーに移管
1977	昭和 52	学科目（カリキュラム）改訂
1980	昭和 55	『農村研究』第 50 号（記念号）刊行（3月）
1981	昭和 56	ゼミナール制度の拡充 特別演習の開設
1985	昭和 60	『農村研究』第 60 号（創設 30 周年記念号）刊行（3月）
1988	昭和 63	学科目（カリキュラム）改訂、選択科目の充実
1989	平成 元	学科創設 50 周年記念式典の開催（5月）
1990	平成 2	『農村研究』第 69・70 合併号（学科創設 50 周年記念論文集）刊行（3月）
1991	平成 3	東京農業大学創設 100 周年記念式典の開催（5月） 『農業経済学科五十年史』刊行（8月）
1994	平成 6	学科目（カリキュラム）改訂 コース制開始「食料・農業経済コース」「生物産業情報コース」 教養課程専任教員の配置替え（4月）

年		学科の動き
1995	平成 7	コース制実施（2 年次より選択） 国際食料情報学部食料環境経済学科再編成委員会が発足（10 月）
1996	平成 8	日本農業経済学会大会の開催（4 月） 同上学部学科再編を文科省に第 1 次申請（9 月）
1997	平成 9	同上学部学科再編を文科省に第 2 次申請（6 月） 同上学部学科再編（昼間主コース・夜間主コースの設置）について文科省から認可
1998	平成 10	国際食料情報学部食料環境経済学科発足（4 月） 食料環境経済学科編『食料環境経済学入門』の刊行（4 月）
2000	平成 12	遠距離視察研修（現：フィールドリサーチ）を開始 学科目（カリキュラム）改訂（4 月）
2002	平成 14	研究室体制の再編（4 月） 農経会を中心に環境美化活動の開始（経堂駅・千歳船橋駅から農大まで）
2004	平成 16	『農村研究』第 99 号（学会創設 50 周年記念号）刊行（9 月） 東京農業大学農業経済学会編『食と農の現段階と展望』の刊行（12 月） 夜間主コースの廃止決定
2005	平成 17	『農村研究』第 100 号（学会創設 50 周年記念号）刊行（3 月） コース制再編「食料経済コース」「環境経済コース」「都市・農村経済コース」「国際農業・貿易コース」（4 月）
2007	平成 19	第 1 回「食・農・環境」教育フォーラムの開催（3 月） 研究室活動年報『食・農・環境研究』創刊号の刊行（3 月） 食料環境経済学科編『食料環境経済学を学ぶ』の刊行（9 月）
2008	平成 20	食料環境経済学科夜間主コース最後の卒業式（3 月） 食料環境経済学科の「山村再生プロジェクト」が文科省の「質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）」に採択（10 月） 農経会の地域での活動が認められ「世田谷区青少年表彰」を受ける（11 月）
2009	平成 21	学科創設 70 周年記念事業・祝賀会開催（2 月）
2010	平成 22	初代学長横井時敬先生、生誕 150 周年記念事業（11 月）
2011	平成 23	「教育 GP」フォーラムの開催（1 月）
2013	平成 25	日本農業経済学会大会の開催（3 月） 研究室体制の再編（4 月） 農地再生プロジェクトの開始
2014	平成 26	コース再編「食料経済コース」「農業経済コース」「環境経済コース」 学科目（カリキュラム）改訂（4 月）
2015	平成 27	第 10 回「食・農・環境」教育フォーラムの開催（12 月） 東京農業大学農業経済学会が食料・農業・農村経済学会に名称変更
2016	平成 28	東京農業大学創設 125 周年記念式典の開催（5 月） 食料環境経済学科が 2 号館から 13, 18 号館に移転（3 月） 農地再生プロジェクトの完了
2017	平成 29	学科目（カリキュラム）改訂（4 月） 国際食料情報学部改組により国際食農科学科が発足 基礎ゼミ研修開始
2019	令和 元	学生×社会 共創プロジェクト「Bridge」開始（4 月） 学科創設 80 周年記念式典の開催（10 月） 新研究棟の完成と移転予定（11 月、1 月） （仮称）学科創立 80 周年記念資料集の発行予定（2 月）
2020	令和 2	新研究棟の供用開始予定（4 月） 新研究室体制のスタート予定（4 月）

